



おちほ

第58号 平成19年6月20日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

彦根城^城は四百周年!

落穂寮は 〇〇〇周年!



じゃあー!
来年会おう
ニヤー(っ)



今年は^傘だった
ニヤー^涙

毎年五月一日は氏神祭。私達落穂寮は、近隣の一麦寮、近江学園と合同で、毎年氏神祭を行っています。各施設が手造りの神輿をもちより、お互いの施設交流をはかり、地元の人達と共にお祭りを楽しんでいます。

今年の落穂寮の神輿は滋賀では有名なひこにゃん（彦根城四百周年キラクター）、そして知る人ぞ知るしまさこにゃん（彦根花しょうぶ通り『ひこね街の駅子屋力石』のキラクター）の二体を製作、他にもちようちんや、Z A Qのぬいぐるみなど、造りました。

しかし当日は雨…。残念ながら今年の氏神祭は中止となってしまいました（涙）。

皆に神輿をお見せできなくて残念…。写真ですけど見ていただけたらと思います。

余談になりますが、後日歩行に出ている時、隣の一麦寮を通った時、グラウンドに一麦寮さんの神輿があり、見るとひこにゃんが…。

来年は晴れたらいいなあ…。

ちなみに落穂寮は五十七周年です。

感 所



理事長 高井正義

三月二十六日（月）週一回恒例の施設との連絡会に出向いたところ、昨日から春季帰省が始まったとのことでした。しかし、寮生日課の歩行に出て行く姿を眺めていると、その人数が殆ど平日と変わらないように思えたので担当者に帰省状況を聞いてみると、五十人中九人が帰省し四十一人が残留しているとのことでした。ということは八割の人が残留していることとなります。二週間の帰省期間中に何人ぐらいの人が帰省出来たのか、その後聞いてみると、出入りはあるが平均すると初日と同数ぐらいの人が毎日残留していたとのことであり、最近では帰省出来ない人が多くなってきたとのことでした。

私も長年の施設経験のなかで、施設に預けられた当時に比べると五年・十年たちますと親さんと子どもさんとの関わりが希薄になっていき、預けっぱなしという姿がよく見られるようになり、大変哀しい思いをした記憶が多々あります。なぜ哀しいかという点、親・家族との触れ合いが希薄になっていくことよって、子どもさんの生きがいや奪われていくように思うからです。生きがいを覚えなくなることからです。生きがいは国語の辞書を引いてると「生きているだけの値うち」というふうには書かれております。生きがいを覚える、ということは「生きていて良かったと思うこと」と書かれています。

どんな人間でも生きていてよかったと思いたいものです。知恵が遅れたと呼ばれている人たちが身体の不自由だ

といわれている人たちも、同じこの世に生まれてきた人間として、生きがいを覚える「生きていて良かった」と思いたいものです。

おちほ五十五号にも書かせてもらいましたが、この人たちに限らず人間の基本な二つの欲求である、安定（やすらかに定まる）と満足の欲求を満たすには「愛」という強いふれ合いで、それぞれの存在感を認めあうことだと思えます。自分はこの人から愛されている、大切にされていることを感じることが大事だと思います。

親は一生、自分の生んだ子どもさんに対して、自分が生んだということ自分の大事な問題として抱えていくべきものではないでしょうか。施設に預けられて、たしかにわが子の世話はある点助かったとしても、心は常に施設の子のところに向いていなければいけないと思うものです。

年数回の帰省期間にわが子を帰省させることがどうしても困難な方、また少し努力すれば可能な方、いろいろと家庭の事情のある事は理解出来ますが、集団生活のため個々の自由や存在が認められ難い施設で生活しているわが子が、少しでも解放感を味わい、親子家族との触れ合いのなかで安定と満足を覚える家庭での生活の機会を、たとえ一日でも二日でも作ってあげてほしいものです。

また、家庭での生活が困難な場合は面会にきて、わが子との触れ合いのなかで親子の絆を深めてほしいと願うものであ

しよかん



寮長 山下陽一

お茶漬の腹

名神高速道の大津インターと京都インターの間に蝉丸(せみまる)トンネルがあります。この名前は百人一首にもある蝉丸に由来しているのだと思いますが、

これやこの行くも帰るも別れては

しるもしらぬもあふさかの閑

これは高校の古文の時間に学んだ記憶があるのですが、不勉強な私などは、

「これやこの行くも帰るも別れてはへるもへらぬもお茶漬の腹」のざれ歌が合

せて紹介されており、こちらの方が強く

印象に残っているという、ていたらくで

す。しかし、この蝉丸、結構シリアスな

内容を持った謡曲となつて構成されてい

るのを最近知りました。

謡曲「蝉丸」

ときの帝(みかど)の第四皇子であった蝉丸は、何の報いか生来の盲目でした。父である帝はこの皇子に因果を含めて侍従に逢坂山に捨て出家させるよう命じます。

侍従とともに逢坂山に到着すると、蝉丸は侍従に「この山に私を捨てるのか」と尋ねると、侍従は、帝は哀れみ深い方

なのにごのようなさきりようは何事か、自分も思いよらぬことだと嘆きます。

しかし、蝉丸は哀れむ侍従に「もともと今自分に振りかかっていることは、前世不徳の報いで、父帝が山に捨てるなど非

情なことにも見えるけれども、こうすることによりこの世において過去の因縁をこ

破算にできる。これは親の慈悲だから嘆

くものではない」と立場を逆に論ずる

です。

侍従は別れ際に蓑、笠、杖と慰めの琵琶を持たせて盲目の蝉丸を山中に置き去りにして去ります。

その後、帝の重臣、博雅(はくが)の将がそれを聞きつけ、見舞いにくるので

すが、あまりのいとおしさに蝉丸の手を引いて藁小屋に導き入れてそのあばら家を去ります。独り山中に置き去りにされた

蝉丸は琵琶をかき抱いて泣きぐずるのです。

ところが、蝉丸には「逆髪(さかがみ)」という姉宮がいました。髪の毛が逆立っている逆髪は狂女(原曲の表現)となつて巷を彷徨しています。

ある時にわか雨の中、逢坂山をさまよっている、撥(ばち)音気高い琵琶の音が聞こえてきます。「もしや」と藁小屋の戸を開けるとあまりにみじめでいたらしい蝉丸の姿。互いに「弟の宮か」「姉宮か」と涙とともに手と手を取り交わし奇遇な再会を喜びます。

姉弟の思わぬめぐり合いも束の間、身の不運なめぐり合わせに嘆きつつしばらく逆髪は、名残り尽きないけれども振り返りふりかえりして互いに別れを惜しみつつ、泣く泣く蝉丸の庵を去っていきま

す。

この行為は合理化されているわけですが、結果は原因のみによって生じるのではなく、その経過に「縁」が貫いている、とされています。このよなことから、本当の衆生を救う仏の教えにかなっていることなのだろうかという疑念が湧いてくるのです。

「因果応報」とは今日でもよく使われることばですが、「今、ここ」において

功徳を積めば救われるという教えとは相容れないのではないかと思うのです。弱

く貧しい者に対して、強い側、さらに豊

かで安定している側の現状を不動なものとして肯定する「方便」に使われている

のではないか？

しかも、他の説話にもこのパターンはよく現われます。青筋をたて理不尽な体罰を加える継母の前に合掌してそれを受け入れる少女の姿は涙を誘いますが、あまりに不憫な事として捕らえ感傷に陥っている、人と人との間柄を見極めると

ときの麻酔剤になってしまうのではないかという気がしてなりません。

子が理不尽な折檻を合掌して受け入れるなど、継母の立場としての勝手な「思い」にすぎないわけでしょう。また、体罰を受ける側の本人は主客転倒した立場に

立てるわけがありませんから、体罰を合掌して受容れるなどありえない。「愛の鞭」などと現在でもよく使いますが、これは受ける側ではなく、常に「加える側」のことばなのではないかと思つています。

そんなことを考えつかつ謡曲を味わうということはできないかも知れませんが、ヒトについての深い洞察が求められるのは古今東西変わらないことだと思

うのです。

蝉丸は第四皇子として生まれたにも

かかわらず、前世不徳の業として現世の

理不尽に耐えることが徳を積むことに

なるとは、ずいぶん勝手な都合ではない

か。また、真のヒトを救う道を説いてい

るものなら、どのような逆境にあつても、

そこから抜け出せる一点の光明が用意さ

れていたり、魔物が蹂躪されたとき、魔

物封じがどこかに隠されているもの

です。帝の重臣が藁屋に手を引いてつれ

て行くことのささやかな行為が、まさに

「地獄で仏」と些細な善意が鮮やかに周

囲の様子とコントラストをなし、際立ち

ます。

この肺腑をえぐるストーリーに何か

仕組まれているのではないか。すなわ

ち、弱い立場に立っている者に因果を

含めて、「仕方がない」とあきらめさせる

ことの中には、支配者側の論理が通奏低音

として存在しているのではないか。その

裏打ちが「かわいそうなのはあなたご

さ」と憐憫の情に陥つてしまいます。こ

の伏線が見えなくなつてしまします。「か

わいそうで、とても見ておられない」と

いう姿勢が事の真相を見逃すことになつ

たのでは弱い者はたまりません。

さて、そうはいくもの、「蝉丸」は

やはり出会いと別れについての永遠の感

動を呼び起こす一曲だと思つています。ス

トリーリの進行には右に述べたように、

真の仏の教えとは相容れないところがあ

るように思いますが、人は独りとして生

まれてやがて人に出会い、絡み合つて想

因果を含めるとは

侍従は帝の命令に、「帝は名君なのに、このようなさきりようは何か」と嘆くの

ですが、当の蝉丸は、前世において修業を

おろそかにしたため、父帝が私をこの山

に捨てたのは慈悲だ。これこそありがた

いこと」とするのですが、どうも私にはこ

れに納得がいきません。

前世の因果が現世に現れているのだ

から、今の境遇を甘んじて受けよ、と帝

の行為は合理化されているわけですが、

結果は原因のみによって生じるのではな

く、その経過に「縁」が貫いている、と

されています。このよなことから、本当

の衆生を救う仏の教えにかなっているこ

となのだろうかという疑念が湧いてくる

のです。

出会いと別れ

さて、そうはいくもの、「蝉丸」は

やはり出会いと別れについての永遠の感

動を呼び起こす一曲だと思つています。ス

トリーリの進行には右に述べたように、

真の仏の教えとは相容れないところがあ

るように思いますが、人は独りとして生

まれてやがて人に出会い、絡み合つて想

いを創る。そして時満ちたとき、後ろを

振り返りふりかえりしながら別れゆく、

この姿は私たちの生きていく道の避けら

れない姿だと思つています。

「蝉丸」はその真理について時代を超

えて語り継いでいるのです。

(二〇〇七・五・一〇)

初めまして。今年、京都保育園専門学院保育科を卒業し、四月から落穂寮の男子棟職員として働いています古路勇介です。

新しい環境でのスタートなので何もかも一から覚えなければならぬことばかりで、慌ただしい毎日を送っています。仕事には少しずつ慣れてきたとはいえ、まだ不十分な所が多く、他の職員の方々には多々ご迷惑をおかけしてばかりですが、これからよりいっそう頑張っていくかと思っています。寮生さん達との関わりに関しては、寮生さん一人ひとりと関係をつくっていくにはまだまだ時間がかかりそうです。けれどまずは私が寮生さん一人ひとりを知り、受け入れていくことで、寮生さんにも私を受け入れてもらうことができ、理解してもらうことが出来ればと思っています。そしてその寮生さんには何が必要か、どのような事を求められているのかを見つけ出し、その人に合った支援を行うことが出来る職員になりたいです。そのためには他職員の方々を参考にし、私らしい寮生さんとの関わり方を確立させ、私らしい援助が出来るように頑張っていきたいです。そして、これからは寮生さん達と共に学び合い、成長していくことができればと思っています。また、寮生さんと関わる時には笑顔絶やさないように心がけ、寮生さんも笑顔で楽しく過ごせることが出来る毎日を目指し頑張っていきたいと思っています。こんな私ですが、これからも頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



今年の二月より落穂寮男子棟職員としてお世話になつて前田陽平です。遅ればせながら自己紹介させていただきます。

出身は滋賀県信楽町です。陶器と福祉の町です。両親が知的障害児施設職員だったので、子ども時代は施設官舎で過ごしました。大学卒業後は、在学中からしていたガソリンスタンドのアルバイトを続けてそのままそこに就職しました。車の整備の仕事は少し経験しています。でも私は鈍くさいのでこの仕事は向かないと思ひ転職を決意しました。その後、たまたま福祉施設でアルバイトをすることがあり、そこで何とも言えぬ懐かしさを感じて自分の原点を確認できたように思つたのです。それ以来、社会福祉の仕事をしたくなりました。(気づくのが遅い...) 落穂寮に来る前は、信楽くるみ作業所で一年半、非常勤で働いていました。私は乗り物が好きで、車とバイクは大好きです。今までの給料はほとんど車に消えてしまつてます。普通車に乗れたのは今の車がはじめてです。今までは軽自動車を開いて走らせて征服感にひたつていました。



まだまだ落穂寮の仕事を覚えられず、寮生さん、職員さんに迷惑をかけています。でも少しずつ自分が成長していくのを実感できるので、くよくよせず全開で走つて行こうと思います。みなさん、よろしくお願ひします。

新人紹介 宜しくお願ひします。

車好き
前田陽平



優しい
パパ
荒木 亮



平成19年 3人の男が やつてきた!!

平成19年

3人の男が

やつてきた!!



体操の
お兄さん
古路勇介

初めまして。京都文教大学人間学部臨床心理学科を卒業し、昨年の十一月から落穂寮の職員としてお世話になっております荒木亮と申します。昨年度までは男子棟で勤務しておりましたが、今年度の四月より女子棟に移つてまいりました。出身は兵庫県で大学は京都府、就職地は滋賀県と順調に実家から離れていっております。実は私結婚しておりまして、妻と、もうすぐ三歳になる息子が一人おります。大学在学中に子どもが産まれたことで児童心理学や発達心理学に興味を持ちはじめ、次第に児童福祉の方に心が向いていき、いつか働くなら児童に関わるところが良いなと思つていました。落穂寮が以前は児童施設であったところに何かの縁を感じました。これまで実習等で障害者施設での経験が全く無く一体どのような所なのか分からず漠然とした不安がありました。就職した当初は寮生さんへの対応に戸惑い、訳も分からぬまま毎日が過ぎていくという感じでした。就職してはや六ヶ月が経ち、男子棟から女子棟への異動もありましたので環境も変わりますが、また新しい気持ちで寮生さん達と関係を築いて



いけたらなと思います。指導員として働かせて頂く以上は一人のプロフェッショナルとして、常に全体を把握し寮生さんの少しの変化にもすぐに気づいていけるようになり、今寮生さんが望んでいることは何なのかを分かることができ、それに合ったことを提供できるようにする職員を目指しています。まだまだ半人前ですが、家族共々宜しく御願ひ致します。

スプリング・ハズ・カム

「よしっ！いい天気だ！」

朝起きて、窓からさしこむ朝日の明るさに『ほっ！』と胸を撫で下ろした朝。だって、だって今日はお花見。新年度が始まって一番最初の行事。去年は雨でした。だからなおのこと、今年の『晴れ』は嬉しいものでした。

目指すは、雨山総合運動公園。例年通り、寮から頑張って徒歩で向かうグループ・途中までは車で行き、車を降りた地点から徒歩で向かうグループ（距離で3つに分かれました。）とにそれぞれ分かれて出発。分かれて出発……ですが、皆、目指すものは一緒なのです。それは何か？…それは言うまでもなく、美味しいお弁当！花より団子。まさにその通りな私達なのでした（笑）。

暑過ぎない、丁度良い陽射し。公園にも人影はほとんど見当たらず、広い芝生には遠慮なくブルーシートを広げることが出来ました。誰もいない広場。



いるのは、今年一年、同じ時間を共有する者同士だけです。のんびりお弁当を食べました。今年のお弁当は料亭で作られたという、味も彩りもお上品なお弁当でした。そのお弁当をのんびり、のほほんと食べる私達。「こんな時間が今年はたくさん、たくさん流れたらいいな。」そう感じるこの出来たひと時でした。

ひと時でした。

雨の日も、風の日も、雪の日も…。どんな日でも寮生さんの空間はあったかくて穏やかな今日のような『春の晴れ』であって欲しい。

今日この日の、その暖かさを忘れずに、今年も一年、寮生の皆さんと過ごす時間を大切にしていきたいと思えます。

(*)



男子棟職
ニューフェイス♥

おやつのお時間

「ん〜♡デリシャス！」

毎月一回。その月の最後の日曜日。場所は食堂。男子棟の行事、『おやつ作り』が行われます。その月のおやつ作りを担当する職員はあれやこれや…頭を悩ませるのです。「なるべく寮生さんに『作る』過程に加わってもらいたい！」そんな気持ちで元々ニューを考えています。

四月。今年度最初のおやつ作りのメニューはズバリ『チーズケーキ』。テーブルに並ぶ材料に寮生さんにはもちろん、職員までもが、テンションを上げていました。一時間あれば出来上がる、そんな簡単チーズケーキ。けれど、出来上がったものは「なんでこんなに美味しいの!？」と、言わずにはいられない美味しさでした。

焦げる事も時にはあります（笑）。でも、それも大切なことなのかもしれません。焦げのちょっとした苦味を味わう……きっとこれも経験!？そんな風に思うのは、料理ベタな職員の言い訳でしょうか

来月、再来月、その先もずっと、月に一度の寮生さんとの『美味しい時間』を大切にしていこうと思っています。

(*)

HOW TO COOK

- ①卵1個を割りほぐし、オレンジジュース 80ml と混ぜる。
- ②クリームチーズをボールに入れ、大さじ2の砂糖を加え、クリーム状になるまで混ぜる。
- ③2に1を加え、なめらかになったらホットケーキミックス 100g と、好んでドライフルーツを加え混ぜる。
- ④フライパンに油を引き、中火にかけ、温まったら一気に3を流し入れ弱火にしてフタをする。ゆーっくり、じーっくり焼く。
- ⑤フライパンに接している面がキツネ色になったらひっくり返す。
- ⑥同様にフタをして弱火で5～6分焼く。
- ⑦お皿などに移し、粉砂糖をふりかけ…出来上がり♡

春の遠足

今年も四月十四日に毎年恒例、お花見遠足に行ってきました。昨年は残念ながら雨で中止、今年も前日の天気予報ではかなり高い確率で雨。しかし朝になってみると信じられないような快晴！桜も満開で絶好の遠足日和になりました。今回の遠足の目的地は十禅寺公園。石部小学校のすぐ裏です。今回は歩くのが速い班、遅い班の二班に分かれて出発です。気持ちの良い日差しの中をのんびりと歩きながら公園に到着！ちょうどお昼になったのでお楽しみのお弁当タイムとなりました。今年はこちらにお上品な折詰弁当、クラスごとに車座になってワイワイとにぎや



▲どンドン歩くぞ！がんばれ～！

かにおいしくいただきました。さて、お腹いっぱい食べた後はしっかりと運動するのが女子棟の『掟』。職員と一緒に公園の遊具に挑戦！すべり台やターザンロープ、ブランコなどなど：寮生さんと職員の楽しい声が響き渡っておりまして。そして最後に全員で集合写真。きれいな青空と満開の桜の下でとても素敵な写真が撮れました。さて、公園まで来たからには落穂寮まで帰らねばなりません。遊びつかれた上に、午後の日差しも四月とは思えないほど。寮に着くころには寮生さんも職員もかなりのお疲れの様子でした。それでも春らしい一日を満喫することが出来た今年の遠足でした。来年もよい天気でありますように。



▲すてきな写真が撮れました

女子棟の日曜日

五月のとある日曜日。午後のうらかな日差しの中、女子棟の前に用意されたラジカセからグラランドに音楽が響きます。「ペッパー警部！」曲はピンクレディー。ちょっと古いですが、女子棟の寮生さんには今だに大人気。音楽が始まると寮生さん達が、ひとりふたりと玄関からクラランドへ…。一体何が始まるのでしょうか？実は（あらたまる必要もないですが）天気も良いのでみんなでのんびりとグラランドで過ごすというワケです。まずは倉庫から職員がゴソゴソと道具を取り出しています。まずはサッカーボール。寮生さん同士でボールをポンポン蹴りあいま



▲のんびりひなたぼっこ



ブランコでプーン

す。お次はグローブとボール。職員とキャッチボールをする寮生さんも。なかなか上手です。球技が苦手の寮生さんはグラランドの遊具で職員と一緒に遊びます。まずはブランコ。自分で動かさない人も職員に押ししてもらいプーン。ごきげんです。他にもジャングルジムに登ったり、回転する遊具に乗ってみたり…。それ以外にも職員と花を摘んだり、グラランドを走り回ったり。ひたすら草抜きを楽しんでいる寮生さんも…。みんなあたたかな太陽を浴びてとても気持ち良さそう。自然と笑顔がこぼれてきます。とても素敵な女子棟の日曜日でした。



ラブラブ？

五十七回目の開寮記念日

五月一日は落穂寮の五十七回目の誕生日でした。

今年もいつもより豪華な昼食を頂きながらささやかなお誕生日会と、勤続五年を迎えた職員の表彰が行われました。

開寮記念日の会場となる食堂は、とても艶やかに飾られており、テーマは「和」でした。

寮生さんに描いていただいた絵をガラス絵の具で描いたものや、和柄の布を使ったテーブルクロス、和風の造形物などなど…。



食堂に入るなり、寮生さんは目を丸くして、飾りものを見ていつもとは全く違う食堂の雰囲気を楽しんでおられました。

寮生さんにとっては落穂寮の開寮記念日というより、お昼のメニューにハンバーグが出る!!という事の方がおめでたい事のように、もうメニューを見た途端の興奮といったらすごいもので



した。

さて、今年の勤続表彰は、お炊事の中敷昌美さんと、女子棟の早坂雅美さんの二人でした。

中敷さんは、グループホームのキーパーさんを経て、お炊事に入られました。寮生さんが家庭的な雰囲気を感じられるように手作りおやつ等を作ってくださいいます。



早坂さんはずっと女子棟で働かれており、主にウクレレを使つての音楽活動で、寮生さんに充実した余暇時間を過ごしていただけるように取り組んでおられます。

少しずつではありますが、勤続年数が長い職員が増えて来ている事に喜びを感じつつ、職員の入れ替わりが寮生さんにどれだけの影響を与えているのかづくづく感じている今日この頃です。

喜ぶのみならず、職員一人一人が寮生さんに満足していただける様、成長して行きたいと思えます。

落穂寮五十七歳。職員、寮生共々今年もよろしくお願ひします。

泉

▼障害者自立支援法が施行され、落穂寮も平成二十四年四月に新体系移行を目指して、具体的に動きはじめました。そのひとつに、障害程度区分を認定する作業があるのですが、される側はもちろんの事、する側も慣れない作業とあって、お互いに確認しあいながら進めているところです。皆様に御協力頂く事もあるかと思ひますので、その時は宜しく御願ひ致します。

▼『福祉の心』ここ何号かに渡つて触れてきた言葉です。サービスという言葉が使われるようになったのですが、一般のサービス業は安定した生活基盤の上のプラスアルファの部分にするもので、私達のそれは生活基盤そのものを安定したものにすることをポート業だと思つたのです。もつと多くの人に考えて欲しいと思ひます。

ことば

木 高く、まっすぐ伸びる大きな木。

大きく手を広げた、広大な木。

綺麗な花を咲かせて楽しませる木。

いつも緑をたずさえて、やさしい気持ちにさせてくれる木。

それぞれに違う姿があり、それぞれに違う役割がある。

さて、あなたのは…なんですか。